

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、香川県の離島「豊島^{てしま}」と瀬戸内海で2番目に大きな島「小豆島^{しょうどしま}」、岡山県玉野市宇野とを結ぶ航路を2隻のバリアフリー対応船舶で運航され、離島住民の生活の足を支えておられる船舶運航事業者と、この航路の利用者にお話を伺いました。

豊島の概要

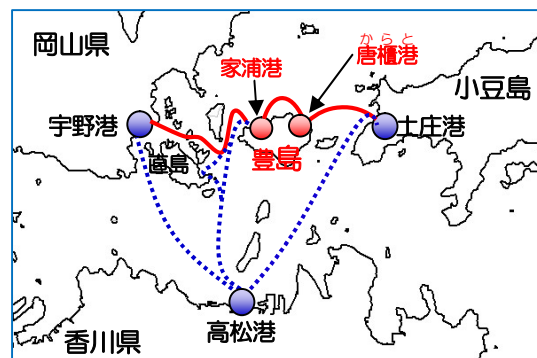
豊島は瀬戸内海の東部、小豆島の西に位置し、人口約1,000人弱、面積が約14.5km²の離島で、香川県小豆郡土庄町に属しています。

島は京都の桂離宮（石灯笼）に代表される「豊島石」が有名ですが、豊富な水と温暖な気候風土を生かして、早くから「稲作」が行われていたことや「みかん」栽培、近年では「いちご」のハウス栽培や「レモン」栽培でも話題を呼んでいます。また、豊島海域は瀬戸内海と大小さまざまな島の豊かな自然に育まれた新鮮な魚介類が捕れ、これら農・水産物などの宝庫でもあることから【食の島】としても知られています。

文字通り瀬戸内海の「豊かな島」ですが、戦後の混乱のなか乳幼児の命の糧とするための乳児院が開かれて以降、特別養護老人ホーム、知的障害者厚生施設、グループホームなど次々と福祉施設がつくられ、【福祉の島】とも呼ばれています。

また、最近では現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2010・2013」の舞台の島の一つとして、「豊島美術館」をはじめ数多くのアート作品が島内5つのエリアに展示され、【現代アートの島】として全国に発信しています。

豊島への交通手段は、岡山県からは宇野港からフェリーで40分（家浦港）、旅客船で25分（家浦港）です。香川県からは小豆島（土庄港）からフェリーで30分（唐櫃港）、旅客船で15分（唐櫃港）です。高松港からはフェリー（60分）か高速艇（30分）で小豆島（土庄港）か、フェリー（60分）で宇野港まで行って本航路に乗り換える



方法と、高速艇で35分（家浦港・直島本村港経由の場合は50分）の直行便などがあります。

船舶・航路の紹介、事業者インタビュー

豊島住民の生活航路となっている宇野～土庄航路は、国や地方自治体などの補助を受けて小豆島フェリー(株)が片道 26km をフェリー1隻と旅客船1隻で運航しています。航路の維持・活性化を図るため、地元住民を含めた協議会によりフェリーの小型化（旅客船化）が検討され、平成25年4月からフェリー1隻が旅客船（バリアフリー適合）に変更されました。船舶の小型化に伴い増便も行われ、フェリーは、豊島～宇野、豊島～土庄それぞれ1日4往復、旅客船は、豊島～宇野1日4往復、豊島～土庄1日5往復となっています。

◆「フェリーてしま」



用途	自動車航送船	船質	鋼	航行区域	平水区域
総トン数	365トン	長さ	46.50m	幅	11.60m
深さ	3.40m	航海速力	12.50ノット（時速約23Km）		
就航日	H18.5.17	旅客定員	350人		
車両航送能力（8トントラック換算）				8台	



客室入rootScope



エレベーター入口

2F



1F



シルバーパスルーム



障がい者対応トイレ



エレベーター操作盤

◆「Mar eてしま」



用途	旅客船	船質	軽合金	航行区域	限定沿海区域
総トン数	19トン	長さ	22.10m	幅	4.00m
深さ	1.74m	航海速度	20.00ノット（時速約37Km）		
就航日	H25.4.1	旅客定員	75人		



乗降タラップ



客室



トイレ



高齢者等優先席




車いすスペース

🌐 高齢化が進んでいる離島住民の生活の足として、普段どのような事に注意、又は従業員への指導をされていますか？

高齢者の方が乗降される際には「足下にご注意ください」と声かけをするほか、荷物などを持たれている方にはお手伝いをさせて頂くという心構えなど、お客様の安全に留意することについて日頃から乗組員に指導しています。


また、フェリーは8年前の新造時にエレベーターや障がい者用トイレを設置、旅客船は昨年の導入時に改造してバリアフリー対応の船にしており、車いすも常備するなど高齢者に優しい船になっています。フェリーの車両甲板には「シルバーパスルーム」も設置して

いますので、高齢者の方はどちらでも自由に選択できますし、お車でお越しの障がい者の方には、事前にお申し出頂ければエレベータにより近い駐車スペースに優先して駐車出来るよう誘導させて頂いています。

 人口減少や燃料油価格の高騰など航路維持は大変厳しいと思いますが、何か工夫されているようなことがございましたらお聞かせください。

四国フェリーグループ全体としてのスケールメリットを生かせるように考えていますが、一般の観光客をいかに増やすことが出来るかも重要です。地元住民の方だけでは人口減少もありますし、コスト削減にも限界がありますので、売り上げを増加させることによって航路を維持していけたらと思っています。高松～土庄・土庄～豊島～宇野・宇野～高松のトライアングル航路のほか、姫路～福田・土庄～豊島～宇野などのアクセスをお客様によく知って頂くための周知活動や、豊島には美術館や魅力のある観光資源が沢山ありますので、そのことをよく知って頂くために関係先とも連携していきたいと考えています。


ただ、地元住民の方の生活航路であり、観光客が多くなって地元住民の方に不便をおかけすることも考えられます。課題はありますが、地元住民の方にも理解を頂けて観光客との共存が出来るような輸送体制も考えながら収支の改善を図っていかねければと思っています。

 平成25年4月からフェリー1隻を小型化（旅客船化）されましたが、利用者からの反応はどうか？

良い点と悪い点があります。


良い点は、快速艇ですのでフェリーと同じ料金で航行時間が短くて早く着くという点です。

一方デメリットということですが、風の強い日とか天候に対してフェリーよりも影響を受け安く、豊島沖などの波のきつい海域もありますので、安全を考えて欠航せざるを得ないこともあって、年間を通じてフェリーに比べて欠航率が高くなっています。また、定員が少ないことから、芸術祭などのイベントがあるとどうしても積み残しが出てしまうことがあり、船をもう少し大きくして定員も増やして欲しいといった要望があります（補助航路を運営していく上ではコスト面を考えると非常に厳しい要望だとは思っていますが・・・）。

 平成25年度に開催された「瀬戸内国際芸術祭」で観光客など利用者はどれくらい増加しましたか？

平成25年度の芸術祭の期間は3会期（春・夏・秋）に分かれておりますが、平均する

と約6～7割増となっています。平成25年の春会期中の利用者（2万人）に対して平成24年の利用者（1万2千人）との差（約8千人）が概ねですが観光客ということかと思えます。平成25年の夏と秋会期中では、利用者（9万人）に対して平成24年の利用者（4万2千人）ということで約2倍に増加しており、芸術祭の集客というのはすごいと思えますが、通常期でも豊島には観光資源がありますし、小豆島に来たお客様をいかに豊島に呼び込むかだと思います。例えば、高松からだ和小豆島（①エンジェルロード～②迷路のまち～③土湊海峡）で2時間、それから豊島に渡って美術館へ行って頂くようなことも知って頂ければ需要はあると思います。四国フェリーグループとして小豆島への観光をベースに豊島もセットにした周知活動も考えていきたいと思っています。

 豊島の方はどのような目的で乗られている方が多いですか？

また、車いす利用者など障害を持たれた方の利用はどの程度ありますか？

豊島～土庄は通勤、通学が主で一日平均約50人、豊島～宇野は通院、買い物が主で一日平均約20人ご利用頂いています。

車いす利用者などのご利用は、週に2～3回程度はあります。豊島の方以外にも土庄や宇野から乗られる方もいらっしゃいます。



利用者からの声

航路の利用者からは、「豊島に嫁いでからずっと利用している。今は通勤（パート）で週5日利用しているが、昼の時間帯の便が少なくなって以前より不便になったと感じている。病院に通院する高齢者のためにも昼の便を増やして欲しいことと高齢者の方だけでもいいので運賃を安くして欲しい。」、「買い物のために週1～2回利用している。今日は健康診断のために土庄の病院からの帰り。車で買い物に行くことが多いのでフェリーの便数が減って不便になったと感じている。快速艇は冬～春にかけて欠航することが多いし、芸術祭の時には島民が乗れないこともあった。」などフェリーが小型化されて不便になったという意見のほか、平成25年4月のダイヤ改正前のダイヤの方がよかったといった声が多く寄せられました。

一方で、「買い物のために週2～3回利用している。快速艇は時間短縮出来て便利。値段もフェリーと同じでクルージングしているようなので、天気の良い時はいつもデッキの椅子に座っている。」、「観光で初めて来た。快速艇はスピード感があって楽しい。これからの島での観光もワクワクする。」などといった声も聞かれました。

インタビューを終えて

過疎化により人口減少が顕著な離島では、島民の足を守るための航路を維持するために常日頃からコスト削減などに努力されていると聞きます。瀬戸内の島々では、瀬戸内国際芸術祭が起爆剤となり、地域での色々な取り組みが活発になっており、人口が回復したと報じられた島もありますが、四国地方では離島のみならず人口減少が加速化しているのが現状です。

インタビューでの島民の方々の意見・要望は生活をするうえで当然のことだと思いましたが、安全運航と航路維持に奔走されている小豆島フェリー(株)のご苦労にも頭の下がる思いです。厳しい中でも「何もしなければゼロ、島に来て頂けるために」といろいろなアイデアを語られながら「夢のような話かもしれないが、究極は補助航路脱却」と笑顔で話された堀川社長の瞳には島民の方々の笑顔や大勢の観光客で賑わう島の姿が見えているように思えました。また、島民の足である航路が元気になることで、島民の方々の要望にも応えられる。そうするためには、少しずつでも収支を改善していくことだと、そのための地道な努力も必要だともおっしゃっていました。



今回、フェリーと快速艇に乗船させて頂きましたが、風はなく波も穏やかで両船とも乗り心地よく快適に感じました。宇野発の快速艇が豊島(家浦港)に入港する際のデッキに乗られていた数名の方々の笑顔と笑い声と島の景色は本当に心和む映画のワンシーンのようでした。

インタビュー実施日：平成26年6月11日(水)・聞き手：秋山、北地